



ウガンダのムベンデ県にてレモングラスの栽培拡大と環境教育による環境保全事業

活動 1.6 学校の子どもを対象に環境教育と啓発キャンペーン (16校の500人の子ども達が対象)

場所：下記リストの参照



マヤ小学校での啓発トレーニング

序論

Global Bridge Network (GBN) 及び地球環境基金(JFGE)の支援を受けて、SORAK は16校(1校につき少なくとも500名以上)の子ども達に対して環境教育と啓発キャンペーンを実施した。

活動の目的

キャンペーンの目的は、様々な環境保全対策を通じて、環境を保護し大切にすることを子ども達へ教える事。また学校側に対し、植樹、レモングラス栽培、環境保護の法律策定等、環境保全対策の必要性とその理由について意識を高めてもらう事。

参加者

学校における啓発キャンペーンは、下記の16校、合計8,020名の生徒達を対象に実施した。

	日時	学校	参加者数
1	2018年6月14日	カブブ小学校 (Kabubu Primary school)	312
2	2018年6月16日	カフンデージ (Kafundeezi Primary school)	620
3	2018年6月17日	マヤ小学校 (Maya Primary school)	655
4	2018年6月18日	キャカンシンビ小学校 (Kyakansimbi Primary school)	411
5	2018年6月19日	カッタンボゴ小学校 (Kattambogo Primary school)	355
6	2018年6月19日	カテガ小学校 (Katega Primary school)	577
7	2018年6月21日	聖キジトキガンバ小学校 (St. Kizito Kigamba primary school)	700
8	2018年6月22日	カブニョニ小学校 (Kabunyonyi Primary school)	656
9	2018年7月1日	エベネザー少年小学校 (Ebenezer Juvenile Primary school)	432
10	2018年7月2日	ムグングル小学校 (Mugungulu Primary school)	506
11	2018年7月3日	ブワータ小学校 (Buwaata Primary school)	464
12	2018年7月4日	センクル小学校 (Ssenkulu Primary school)	340
13	2018年7月5日	ブガンニ小学校 (Buganyi Primary school)	610
14	2018年7月6日	ブハイルウェ小学校 (Buhairwe Primary school)	474
15	2018年7月8日	マククル小学校 (Makukulu Primary school)	507
16	2018年7月9日	ココンジェル小学校 (Nkokonjeru Primary school)	401

ファシリテーター (実施者)

環境啓発キャンペーンは、SORAK スタッフと学校の教員で構成したチームにより実施した。

1. Nnakiruuta Hadijah (SORAK Development Agency のプログラムマネージャー) : SORAK の団体、地球環境基金 (JFGE) と本プロジェクトと背景について説明した。
2. 学校の教員: 学校周辺の環境の範囲と、学校の環境保護に関する規則について話し合う役割を担った。

活動内容

本キャンペーンでは学校へ通う全生徒やその他グループへ環境問題についての啓発を行い、また子ども達と教員による積極的な取り組みによって環境保護への対策をとる事が目的であると、SORAKのプログラスマネージャーから説明があった。

子ども達は下記について学んだ。

環境劣化の主な原因

- 環境汚染は、空気、水、土地、騒音などいかなる形態であっても、環境に悪影響を及ぼす。例えば、大気汚染は私達が吸う空気を汚すため、健康問題を引き起こす。また、水の汚染は、私達の飲料水の水質を低下させる。森林破壊、木々の燃焼、ごみの投棄等の人間の行いによって起こる土壌汚染は、地表の劣化をもたらす。
- 過度な放牧は土地の劣化に繋がる。土地の劣化は地球全体で問題となっており、主に農業利用に起因する。放牧地を求めた伐採と森林減少が土地劣化の主な原因である。
- 家畜の放牧等環境への配慮が不十分な農地利用によって、土壌の栄養が枯渇してしまう。
- 石、砂、鉱物の採石による影響。

環境を守るために学校・社会がすべき提案

<教員による行動>

- 環境保護に関する情報は、学校へ通う子ども達を通して社会全体に行き渡らせる事ができる。この子ども達の立場を利用し、彼らが社会の役に立ようにする事。
- 学校の環境保護クラブを効果的に活用する事。
- 環境保護に関する学校規則やルールを作り、子ども達が従うように監督する事。
- 子ども達に環境保護に関する教育の機会を与え、またテストや作文コンテストを開催する事で、子ども達の環境問題への理解を促進する。
- 環境問題の啓発のため、集会、セミナーや討論会を学校で開催する事。

<子ども達による行動>

- 植樹活動
(環境保護のプロジェクトの一環として苗木の提供の準備中である事が、SORAKマネージャーから伝えられた)
- 学校や村にて、植物の苗床を定着させること。
- 学校の内外で植樹や清掃活動を始める事。

<地域社会全体による行動>

- 子どもたちが自分達の住んでいる社会（地域）が直面している環境問題に直接触れて、解決策を考えさせる。
- 環境と開発に関する意思決定へ、子ども達に参加させる。
- 土壌侵食を防ぐために庭の隅や劣化した土地にレモングラスを植える、リサイクル可能な商品を積極的に買う、リサイクルされた材料からできた商品を選んで買う等の環境に関する行動を子ども達と一緒にやる。
- ごみの不法投棄や学校から出る危険な廃棄物の投棄等、環境悪化を引き起こす行為を阻止する行動をとる。



ココンジェル小学校での啓発トレーニング



カフンデジ小学校での啓発トレーニング

トレーニングの結果と提案

- I. 教員は、学校や地域社会で環境保全につながるの学校への苗木の提供について感謝の意を表した。
- II. 子ども達は、環境保護に関する校則を破ると罰則に繋がる事を認識した。

III. 子ども達は、両親にも環境保護の大切さをわかってもらうため、学校で学んだ事を両親に共有する事を約束した。

参加者から下記提案があった。

- 学校の管理者は、環境と開発に関連する分野における意思決定への子ども達の参加を推奨した。
- 子ども達は、環境悪化の危険性を学ぶために、汚染・劣化した土地や自然動物公園を見学しに行く機会を設けてほしいと教員へお願いした。
- SORAK からは、「環境の日」を祝い、子ども達に健康に良い環境保護に関する啓発を行い、認識のギャップを埋めていく事を学校にお願いした。
- 学校から SORAK へコミュニティセンターや学校で、環境保護をテーマとした上映会を開催する事を提案した。

最後に、今回の学校での環境啓発キャンペーンは、教員たちからも学びの環境を得る得ることができたと感謝され、非常に良い結果をもたらした。